

4月21日に、本校6年生216名を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について、結果がまとめました。本調査は、国語・算数・理科の3教科のテストと同時に、家庭での生活習慣や家庭学習への取り組み方、また児童の自尊感情や学習に対する意識を問う調査も実施されています。3教科のテストの結果とともに、本校で重点的に取り組んでいることと学力との関連や、家庭生活と学力との関連などについて分析をしました。今回、その概要を本校の子どもたちの状況としてお伝えします。

総合結果（国語・算数・理科）

国語A・B、算数A・B、理科の全ての調査で全国平均を大きく上回る良好な結果でした。昨年度に引き続き、主として知識理解を問う国語・算数のA問題よりも、主として活用する力を問う国語・算数のB問題において、全国平均をさらに大きく上回っており、文章で答えることや、問題に与えられた様々な情報を関連付けて考えることに対して、高い力をつけています。

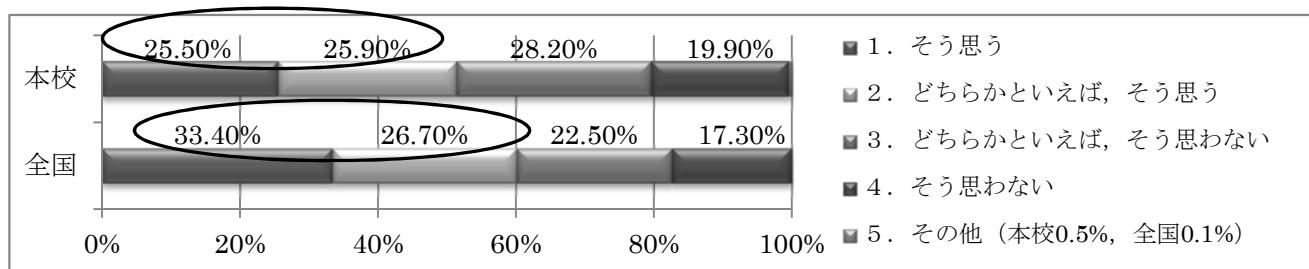
国語科の調査と児童質問紙の関連項目より

国語科の調査問題では、漢字の読み書きや言語に関する知識を問う問題はもちろん、新聞や紙しばいなど様々な表現方法に関する問題や、文字数や使用する語句など条件に合わせながら、適切に記述する問題などが出題されています。

本校の子どもたちは、国語科の調査全般で良好な結果を残しています。特に国語Bの記述問題において高い正答率となっており、「書く能力」が着実についていることがうかがえます。いくつかの資料から読み取ったことを関連付けたり、比較したりしながら自分の考えをもち、そのことを文章で表現する力は、国語の学習のみならず、読解力育成を目指した本校の取組の中でつけていきたい力と重なるものであり、取組の成果であると考えています。

国語科と関連のある児童質問紙の項目と本校の結果

質問番号（44）「400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか？」



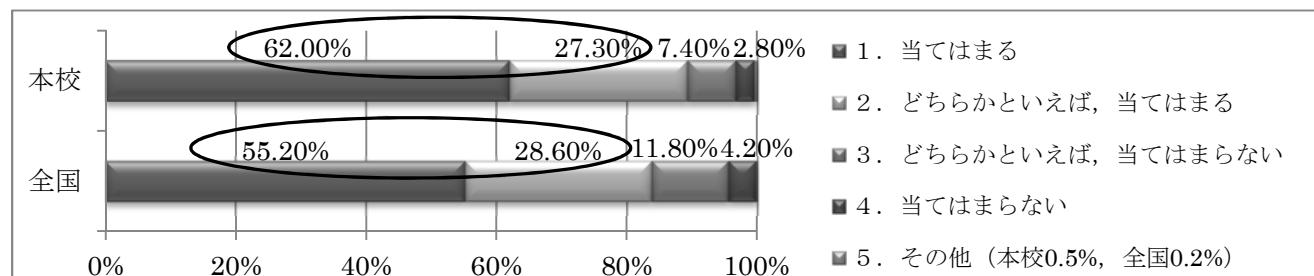
○「児童質問紙」においても、文章を書くことに対する抵抗感が低いことが分かります。毎日の課題の中で条件に合わせて書く取組を積み重ねていることも、書くことに対するハードルを下げ、「書く能力」育成の大きな土台となっていると考えています。

算数科の調査と児童質問紙の関連項目より

算数科の調査問題においても、全般的に良好な結果が出ています。特に算数B問題において、全国平均や京都府の平均を大きく上回っており、知識や技能面だけではなく、それらを関連付けて活用する力がついていることが分かります。B問題は問題文の文章だけでなく、図、グラフ、表などから情報をしっかりと読み込み、関連付けて考えることが必要となります。「読解力」育成に向けて、様々な情報を整理・分析し、自分の考えをつくり出す学習の積み重ねが、そのような結果につながっているものと考えます。また問題形式別にみると、記述式の問題において大きな成果が出ています。

算数科と関連のある児童質問紙の項目と本校の結果

質問番号（67）「算数の授業で問題の解き方や考え方方が分かるようにノートに書いていますか。」



○「児童質問紙」においても、授業の中で解き方や考え方を記述している、と回答している割合が全国平均に比べ高く、記述式の問題に対応する力を日頃の学習の中で身に付けていることが分かります。

理科の調査と児童質問紙の関連項目より

理科の調査問題においても、全般的に非常に良好な結果が出ています。知識面よりも、技能や考え方において全国や京都府の結果を大幅に上回っており、理科室での実習を伴った学習や、なぜそうなるのかを根拠をもって考える活動の積み重ねによる結果ではないかと考えています。問題の形式別の結果では、記述式の問題の正答率が全国平均に比べ著しく高く、他教科と合わせて記述力が育っていることが分かります。

児童質問紙においては、質問番号（74）「理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つを思いますか」、質問番号（76）「理科の授業で、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしていますか」、質問番号（77）「理科の授業では、理科室で観察や実験をどのくらい行いましたか」という項目においてプラス面的回答をしている児童が多く、良好な結果を裏付けるものとなっています。自分たちの生活や社会への理科の有用性を感じながら学習できていることも成果が上がっている大きな要因だと考えられます。

全体を通して

国語科、算数科、理科のいずれの教科においても記述式の問題を中心とする活用的な問題において良好な結果が出ていることは、本校の学習全般を包括する読解力育成の取組の大きな成果であると捉えています。自分の考えたことを、根拠を明らかにしながら筋道立てて記述する力は、ドリル的な反復練習で身に付けられるような力とは違い、文章を読み、得られた情報やこれまで学習した知識を整理・分析・統合して考えていく活用的な学力です。これは、一朝一夕につけていくことはできません。6年間の系統的な取組の積み重ねの結果、身に付くものであると考えています。今後も、学校総体として子どもたちの学力向上を目指して日々の授業づくりに取り組んでいきたいと思います。活用的な学力のベースとなる言語や数量、図形、科学的事項に関する知識については、より確実に子どもたちに身に付くよう学習方法を工夫して進めていきたいと思います。

保護者の皆様へ

今回、学校の取組と調査結果の関連について分析し、お知らせしておりますが、学力は学校だけの力でつくものではなく、子どもたちを見守り、育てようとする、学校・家庭・地域での地道な取組の積み重ねにより定着していくものであると考えています。望ましい生活習慣や日々の学習習慣が学力向上の土台であることは間違ひありません。児童質問紙における家庭生活に関わる項目の集計からも、各家庭での努力、支えがあってこそ、本校の子どもたちは今回ののような結果を出すことができたのだと思える結果が多くありました。今後とも子どもたちの健やかな育ちと学校・家庭・地域が一体となった学びの環境づくりにご協力をお願いいたします。